

「公正競争確保の在り方に関する検討会議」第1回会合に関する質問項目

(NTT)

- 1 NTTグループ内連携を強化した場合、禁止行為規制のうち、不当な優先的取扱いの禁止や情報の目的外利用について、どのような形で担保されていくのか。【石田構成員】

(NTT)

- 2 NTTドコモ、NTTコム、NTTコムウェアとの一体化による連携強化による具体的な事業戦略とは何か。その際、NTTデータが上場子会社のままであることとの整合性をどのように考えればよいか。これらのケースに即して、親子上場のメリットとデメリットをどのようにお考えか。【岡田構成員】

(NTT)

- 3 NTT東日本はローカル5G普及研究会の活動に積極的に参加しているが、NTTグループとしてローカル5Gはどこが担っていくのか。また、ローカル5G構築にあたって、NTTドコモとの設備・ソフトウェアの共用や共同調達を考えているか。【相田主査代理】

(NTT)

- 4 研究開発の強化については、対NTTドコモの資本構成を変えなければならないことなのか。親子上場で少数株主との利益相反に留意して慎重な経営を行うことが制約となることは一般論としては理解できるが、サービス創出力・研究開発力が制約されることはないのではないか。【大谷構成員】

(NTT)

- 5 会議資料ではNTTドコモ完全子会社化後の取組のうち、研究開発力の強化としてIOWN構想というものが挙げられている。そこで、IOWN構想におけるNTTグループ各社の位置づけや関連性について伺いたい。【高口構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 6 NTTドコモとNTTコムとの連携について、NTTは市場競争への悪影響はないとしており、競争事業者はグループの一体化を懸念している。それぞれ具体的に根拠等を説明して欲しい。【大谷構成員】

(NTT)

- 7 NTTに対する公正競争要件において、研究開発成果の開示についての同等性の確保に関する要件があるが、この要件について、これまで及び今後の具体的な対応を伺いたい。【高口構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 8 これまでの公正競争確保に係るルールやその検証などで不十分な点があるのであれば、具体的にご教示いただきたい。【関口構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 9 また、公正競争確保に係る検証を定量的に行う際に用いるべき指標・観点があれば、ご指摘を頂きたい。【関口構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 10 現状、接続規制の及ばない部分についても、卸の届出制度など、一定の規律が存在している。現在の接続ルールや卸ルールで具体的に不足しているところはあるのか。【大谷構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 11 技術の進展に伴い、現状の接続会計・接続ルール及び卸の届出などの諸規制が骨抜きになることを懸念されているところ、現状のルールをどのように見直せばよいと考えるか。【大谷構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 12 禁止行為規制について、NTTは、NTTドコモのみが規制対象であることの見直しを求めている一方、競争事業者は、規制が不十分と主張している。それぞれ具体的に理由を説明して欲しい。また、こうした見解の差異が生じる理由についても、具体的に説明して欲しい。【大谷構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 13 NTTから説明のあったNTTコムとNTTドコモが共同で法人への営業を行うことは、現状は禁止行為規制の対象となっているが、NTTコムの事業をNTTドコモに移管するなどの連携強化の方向性については、どのような懸念点があるか。【大谷構成員】

(NTT)

- 14 禁止行為規制により、NTT東西・NTTドコモは接続の業務に関し知り得た情報の目的外利用が禁止されており、人事交流を通じて情報の目的外利用が誘発されるのではないかと懸念が示されている(資料1-4の30頁)。情報の目的外利用は、目に見えにくく客観的な検証が難しい中で、遵守のための具体的な対応を伺いたい。【高口構成員】

(NTT)

- 15 NTTドコモが非公開会社となることにより事業の透明性が損なわれるとの懸念が競争事業者から出ているが、必要な範囲で透明性確保のために上場会社であったときと同等の情報の適示開示を行うことについてどう考えるか。【大谷構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 16 NTTドコモが非公開会社となることにより失われる透明性を補うために一定の情報の適示開示を求めるとすれば、どのような内容が公開されるべきと考えるか。【大谷構成員】

(KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 17 11月11日に28者が連名で提出した意見申出書のうち、申出事項の(2)③の記載の趣旨等が不明確であるので、明確に説明いただきたい。【石田構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 18 公正競争確保を検討するに当たって、市場の範囲をどのように認識しているのか。
また、隣接市場からの競争圧力として具体的にどのようなものを想定しているか、有力な競争相手としてどのようなプレイヤーをお考えか。サービス・技術競争、イノベーション競争に即して各社のご認識をお尋ねしたい。【岡田構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 19 今後の事業戦略上のイノベーションのボトルネックとして、光ファイバー網のご指摘があった。しかし、5G以降では異業種連携の重要性が高まり、関連する標準必須特許の範囲も膨大になるといわれている。研究開発の共同化や標準化戦略の重要性も増すように思われる。各社にとって今後の事業戦略・競争戦略上のボトルネックとなるものは何か、ご認識をお尋ねしたい。【岡田構成員】

(NTT、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)

- 20 NTTドコモが携帯市場において、直近では3番手となっていると説明されているが、このことについての各社の認識を教えて欲しい。【関口構成員】